

導入事例  
23.8型ワイド  
液晶ディス  
プレイ

## 総合病院の電子カルテ用に導入。 コストパフォーマンスのよさが決め手!



入院・外来合わせて数多くの患者様のデータを電子カルテで管理されている東京歯科大学市川総合病院様。その表示画面として当社の液晶ディスプレイ[LCD-MF244EDW/B]が導入されました。副病院長であり臓器がんの権威でもある松井淳一先生が、自ら選ばれたとのこと、病院の運営を担う立場、かつ実際にお使いになる立場から、なぜ本機を選定されたのか、どう満足されているか、お話を伺いました。



### 導入商品

広視野角ADSパネル&  
フリースタイルスタンド採用  
23.8型ワイド液晶ディスプレイ  
[LCD-MF244EDW/B]  
※後継モデル[LCD-MF244EDS-Fシリーズ]

### 実機デモの結果、コストパフォーマンスの高さで選定。

松井先生:電子カルテとは、ディスプレイ上で患者様のデータを呼び出したり、新しい記録を残したり、レントゲンのフィルムを見たりできるシステムです。ドクターだけでなく、看護師も患者様のケアをするのにカルテが必要ですね。数多くの患者様のカルテを見るために、外来の診察室をはじめ、病棟、受付など病院全体で必要なので、相当な数になるわけです。電子カルテというシステムには億単位の費用がかかります。また、病院全体で多くの人が使うものなので、それぞれにとってできるだけ使いやすいものを選びたいと考えました。そのため、いろいろなディスプレイを比較・検討しました。候補をピックアップし、最終的に4社、10機種ほどだったと思います。そこから、実際に病院まで持ってきてもらい、電子カルテでのデモをして、アイ・オー・データ機器の製品がベストと決断しました。



### 画面の向き、高さを調整できる機能は、多くの人が使う病院では必須。

松井先生:ディスプレイは患者様とのコミュニケーションにも使います。高さや角度も変えられる「フリースタイルスタンド」は、レントゲン写真や検査結果もお見せしやすくして重宝しています。実は、多くの診察室で、電子カルテを書くための画面とレントゲン写真を映し出す画面、2台並べて使っています。その際、縦・横に画面を回転できる機能も便利です。電子カルテは横長の画面が見やすく、画像を見る場合は縦長のほうがいい。診療する科によっては、縦置きと横置きを組み合わせで使っている先生もいます。用途や使う人に応じて使い分けできるのは便利ですね。後方に場所を取らないスタンド形状もありがたいです。当初、2台並べて使うにはフレームがないほうがいいのかと考えましたが、向きを変えたり、動かしているときに逆にぶつけてしまったりして、故障の心配が出てくるので、今の細めのフレームでよかったですね。大きな1画面のディスプレイという病院もありますが、そうすると価格が高くなります。2画面で文字も大きく、画像もはっきり。スペース的にもすっきり。ベストバランスだと思います。

### 長時間の使用にも配慮した「目に優しい機能」。

松井先生:受付にも同じディスプレイを採用しています。病院内全体で同じものを導入するほうが、使い方や設定をいろいろと覚えなくていいので、それぞれが使いやすい位置や角度にでき、明るくワイドでキレイなディスプレイが行き渡って、以前と比べてもよかったと言ってくれているので、選んだ私も「そうだな、このディスプレイはいいだろう」と胸を張れます(笑)。みんなをまとめる立場としてもありがたいですね。副病院長は職員みんなのことを考えて選んだ、と書いておいてください(笑)。もちろん、目にやさしい機能について配慮して選びましたよ。たとえば、違いはわからなくても、あるに越したことはないと考えました。毎日、何時間も目にするものですからね。長い人だと朝から外来の診察を行って、夕方まで頑張っている先生もいますから。文書作成など事務処理がメインの職員だと、ブルーライト低減機能を使っていますね。

### 5年保証も含めて、総合的にスマートな選択。

松井先生:患者様の側から見て、正面の位置でなくても鮮明に見えるのはいいと思います。画質も充分美しいと満足していますよ。コストパフォーマンスを総合的に考えてスマートな選択だったと思います。5年保証も会計や管理担当者にとっては大きかったですよね。ただ、私は管理監督する立場でもあるけれど、使っている医者の一員でもあります。やはりドクターや看護師の目線から見ていいディスプレイであることが第一です。患者様へのケアにつながるわけですから。正直、5年保証は選択の決め手ではないですが、最終的なブラស់αではあります。これから、そのありがたみが実感できるかもしれませんね。



副病院長 外科部長 松井 淳一先生

CLIENT  
DATA

#### 東京歯科大学市川総合病院

日本病院機能評価機構の認定はもとより、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院、臨床研修病院などの指定を受け、地域社会から求められる総合病院としての役割を担っている。

◎設立/1946年12月 ◎ウェブサイト/http://www.tdc.ac.jp/hospital/igh/

担当  
担当者名

東京歯科大学 外科学講座主任教授  
東京歯科大学市川総合病院 副病院長 外科部長  
慶應義塾大学医学部 外科学客員教授  
松井 淳一先生